

# 江尻宿・宿場コース 家康公の想いにふれるコース ●約2.0km

「江尻」とは巴川の尻(下流)のことであり、巴川が作る砂洲上にできた宿場です。武田氏が江尻城、城下町も築き、江戸時代から物流などで繁栄していました。当時のものは残念ながら大火や戦災で残っていませんが、所々に在りし日の姿がうかがえます。

## 1 江浄寺

家康公の嫡男である信康公は武田家と内通していると信長公に疑われ、徳川家の存続のために自害した若武者です。彼の死後、遺髪を寺の境内に埋め五輪塔を建て供養しました。将来を囑望していた嫡男を自害させなければならなかった家康公の無念は、関ヶ原の戦いの前にこの寺を訪れ、彼の命日に戦を始めたことからもうかがえます。



静岡市立清水桜ヶ丘高校

またこの寺には恋が成就する「恋塚」があります。江戸時代初期 松浦(長崎県)藩主の弟、成清は兄が自分の許嫁を側室にすると聞き、禁を犯し江戸を抜けだし、江尻宿で兄の行列に追いつきました。しかし、無断で江戸を離れたことはお家取り潰しにつながるから、成清は25歳の若さで切腹させられることとなりました。彼は「我が墓はこの寺に建てよ、それに願をかける者があれば、その想いをとげさせてやろう」と遺言し、浄土で縁結びの霊魂となることを誓ったそうです。

## 2 江尻城跡(江尻小学校内)

今川家を滅ぼした武田信玄公は今川城下町より江尻を重要視しそこに城を建てました。史実等資料は残っていませんが江尻城には「国を正しく観る高樓」という意味の「観国楼」という天守閣があったようです。日本で初の天守閣は安土城といわれていますが、もしかしたらこの江尻が日本初の天守閣を持つ城のあった場所だったのかもしれない。

## 3 河童伝説 稚児橋

家康公により巴川に橋が架けられ、橋渡りのセレモニーで人が渡り始めようとしたとき、川から童子が現れ、橋脚に登り入江方面へ消えていきました。集まっていた人たちは突然のことに大変驚き、巴川にすむ河童が童子の姿となってこのイベントに参加したのでは…と思い、この橋名を江尻橋から稚児橋へと変えました。

## 4 朝顔日記主人公深雪の墓

浄瑠璃歌舞伎の哀話である朝顔日記。その内容は、城主の娘深雪が宇治の蛸狩りで若い侍と恋に落ちることから始まります。お家騒動のため別離し、縁談が起こるが、それが自分の恋焦がれている若侍であるとは知らず断り続け、出奔します。さまざまな辛苦で盲目となり、やがて侍と再会す

るが失明のためわからず、のちに知って追いかけるが大井川の川止めにあい…という奇数な運命の女性の話です。そのヒロインのモデルの墓が法岸寺本堂左手奥にあります。この墓の深雪は実家が領地没収の憂き目にあい他家へ養女にいくが、そこでも家騒動に巻き込まれ、身分を隠し、琴を弾いて門付けとなりながら浜松にたどり着いた女性です。その後、駿河の国の奉行の嫁となり、清水で没しました。

## 5 株巴川製紙所の門「三ツ石」

家康公が駿府城を築くため、諸国の大名が献納した城石が筏の事故で川に落ちてしまいました。落ちた石は「落城」につながるとして引き上げられなかったのですが、この大きな石は潮の干満により見え隠れして「三ツ石」と呼ばれていました。明治期に工場の門柱にされて今に残っています。

## 6 魚町稲荷神社(サッカー神社)

サッカーで有名な清水の始まりは、昭和31年江尻小学校にサッカー好きの新任教師である堀田氏が赴任したことからはじまります。ここから日本で初めての少年サッカーチームができ、国内初の小学生リーグがスタートし、多くの選手を輩出しています。神社内には多くの市民の手で日本少年サッカー発祥地としてのサッカーボールの碑が建てられており、選手などがお参りしています。



清水区役所

江戸時代からつく清水民芸品で「でっこるぼう(首人形)」の玩具です。竹串に武者、お多福、鬼などの首がついており、着せ替え人形として親しまれてきました。

## ちびまる子ちゃんのまち

「ちびまる子ちゃん」は70年代の清水区入江町が舞台です。作者のさくらももこさんはこの町で育ちました。マンガには実在するお店や人や出来事がモデルになって登場しています。エスパルスドリームプラザにちびまる子ちゃんランドがあります。

## 今では清水のソルフード! もつカレー

戦後、居酒屋の店主が考案したカレー。旧清水市内の居酒屋の定番メニューとなり、缶詰、レトルトなどお土産としても売られています。

